

# 経営比較分析表

愛知県 西条市

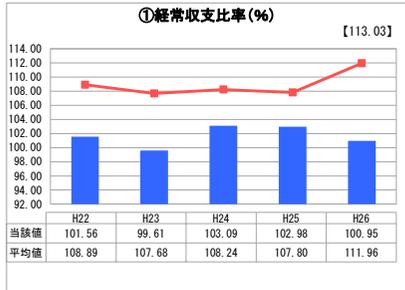
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	46.19	45.07	2,203

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
112,959	509.98	221.50
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
50,702	89.92	563.86

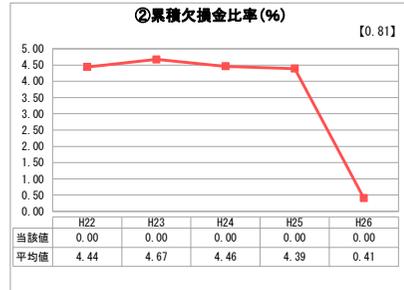
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成26年度全国平均

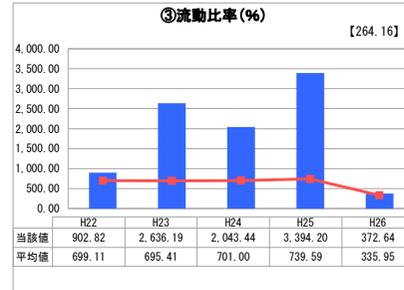
## 1. 経営の健全性・効率性



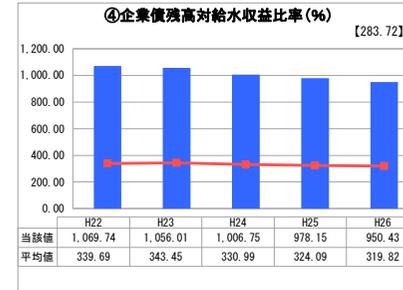
「経常損益」



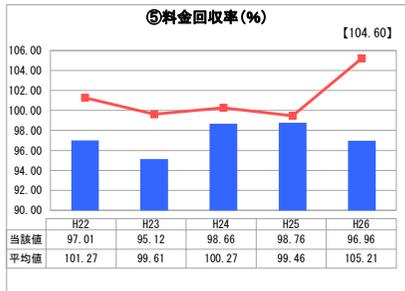
「累積欠損」



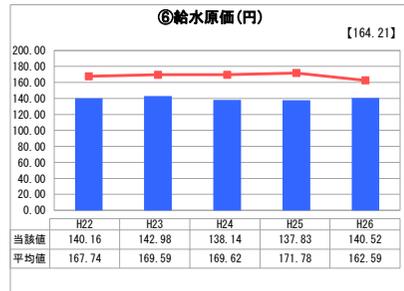
「支払能力」



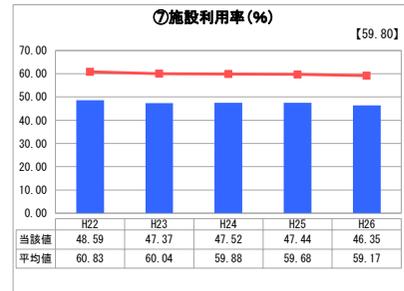
「債務残高」



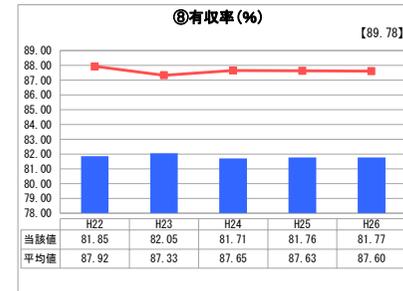
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

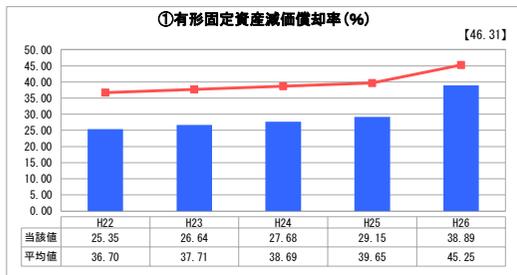


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

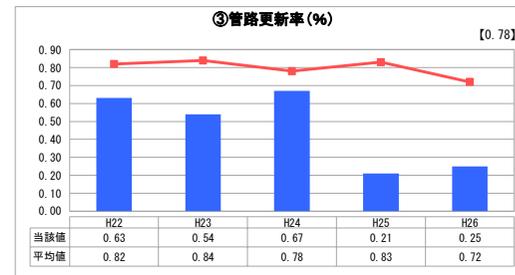
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

当市では、人口が集中する市内中心部には水道施設がなく、約半数の市民が地下水を生活用水として利用している。また、料金の水準も全国平均と比べて低い水準にあり、十分な料金収入が確保できていない。

そのため、経常収支比率、料金回収率といった指標は類似団体よりも低く、また企業債残高対給水収益比率においては高い数値となっており、料金収入に大きく影響されている。

短期的な支払能力を表す流動比率は、現時点では平均値を上回っており、大きな問題はない。しかしながら、安定的な収入を確保できなければ、将来的に企業債の返済資金を、十分に確保できなくなる恐れがあるため、将来を予測した適切な料金設定が必要である。

給水原価が低く抑えられているのは、水質の良い地下水が豊富にあり、高度な浄水施設等が必要ないことや、人件費削減等の経営努力を行ってきたためである。

効率性においては、施設利用率、有収率といった指標は類似団体よりも低く改善の必要がある。特に有収率においては漏水等の影響もあるが、メーター不感等の影響も考慮し原因を特定して改善する必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

管路については、管路経年化率は類似団体と比較して低い水準にあり、老朽化が深刻でないことから管路更新率も低い傾向にある。

また、有形固定資産減価償却率が低いことからわかるように施設全体としても、類似団体と比較すれば老朽化は進んでおらず、特に機械・設備関係は適宜更新を行っている状況である。

しかしながら、水源池、配水池、管路等の更新、耐震化を進めていかなければならないのは、他の事業体と同じ状況であり、財源確保も含め計画的な更新が必要である。

### 全体総括

老朽化の状況は、他の事業体と比較すれば深刻ではない。しかし、当市では有収率が悪く、老朽管の更新や耐震化等で計画的な更新が必要な状況には変わりない。

そのためには、安定的な経営によって更新に必要な資金を確保する必要があるが、経営指標においては、料金収入に関わる指標が類似団体を下回る結果となった。

当市においては、合併前の旧2市2町の料金体系を引き継いでおり、未だ統一できていない。必要な料金改定を先延ばしにしていたことが、経営指標悪化の最大の要因である。

それらを解決すべく、平成27年度に地区間の格差を縮小する料金改定を行い、料金統一に向けてようやく進み始めたところである。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。